

みんなの顔が見えるまち



人権シリーズ vol.1

講演「子どもの中で学んだこと」を聴こう

すべての子どもたちの心を受容するやさしい笑顔に見守られて、子どもたちが自分の悩みや思いを述べ、あひ、解決方法をみんなで考えることができたらどんなにすばらしいでしょうか。

5月18日、アストくにさきで開催された「くにさき地区人権教育研究協議会」の総会で、宇佐市隣保館指導員の牧野久美子さんの講演は、部落差別の現実と子どもにやさしい笑顔で寄り添うことの大切さについて私たちにとって強く考えさせられるものがありました。

講演の中で紹介された「あの子とは、遊んだらいけんよ」という母親の言葉は、言われた側の被差別部落の子どもだけでなく、遊ぶことを許されない子どもたちをも傷つけています。この冷たい大人の言葉がどれほど深く多くの子どもたちの心を傷つけているでしょうか。これが部落差別の現実だと思います。私たち大人が変わらずして、子どもにどんな人権教育ができるのでしょうか。

22年間、牧野さんの笑顔に、たくさんの子どもたちが、自分の地区のこと、両親のこと、将来の進路や就

職、結婚についての夢や悩みを話します。

また、子どもたちみんなで話をすることで、部落差別とは何かに気づき、自分たちが嫌なことから逃げず、まず学習しなければいけないというところに気付いていく過程が紹介されました。そして牧野さん自身も子どもたちの姿に励まされ、指導員として誇りをもつようになる様子がよくわかりました。

私たちの「くにさき地区人権教育研究協議会の人権教育の基本方針」の第1項に、「差別の現実に深く学び、同和教育の視点に立った人権教育を自らの課題として受け止め、会員自身の変革を図る」とあります。今回の牧野さんの講演を聴いて、様々な厳しい生活背景をもつ子どもや寂しい立場の子どもにどのような心で接していくべきかを私はいつも自分に問うていくつもりです。

城崎中学校長 高見春生

※市報くにさき5月号に誤りがありました。11ページ国見教育事務所FAX番号、正しくは0205です。お詫びして訂正をいたします。

そだてようやさしい心 大きな夢 いっぱいに

「人権の花運動指定書」

国東小学校に交付

大分県方法務局杵築支局（伊東大蔵支局長）は、国東小学校（山本泰光校長・315人）を「人権の花」運動実施校に指定し、5月16日（火）同校体育館で指定書の交付式がありました。

式では、山本校長のあいさつの後、杵築人権擁護委員協議会の都留俊一郎会長が「人権とは、みんなが幸せになる権利のことです。頑張る芽、元気の芽、仲良しの芽を育て、花を大切に、友達を大切に、やさしい人になってください。」と呼びかけました。その後、都留会長、伊東支局長から児童会役員に指定書の交付と立て看板の贈呈がありました。



▲指定書と立て看板が児童会役員に贈られました

「人権の花」運動は、花の栽培を通して、児童の情操をより豊かにし、優しい思いやりの心を養うことを目的としています。国東小学校では、栽培委員会を中心に一年間ひまわり、ハボタン等を栽培して記録をまとめて、人権の大切さを学ぶことにしています。

「差別をなくす人権標語」を募集しています

同和問題をはじめとする様々な人権問題の早期解決を目指し、「人権を守り、差別をなくす」ことを内容とした標語を広く県民の皆さんから募集します。

募集対象及び応募方法

- ・児童生徒：各学校で取りまとめて応募してください。
- ・児童生徒以外の15歳以上で県

内に在住する人

- ① 標語、② 氏名（ふりがな）、③ 住所、④ 電話番号を明記して応募してください。1人1作品のみです。

締め切り 6月27日（火）

問い合わせ 国東市生涯学習課

人権・同和教育係 ☎097

8②2121 FAX097

8②4070